

# 日本運動器看護学会誌 投稿規定

平成 18 年 4 月 15 日改正  
平成 18 年 7 月 1 日改正  
平成 19 年 3 月 17 日改正  
平成 20 年 3 月 15 日改正  
平成 21 年 3 月 15 日改正  
平成 25 年 1 月 27 日改正

## 1. 投稿者の資格

本誌への投稿者(共著者を含む)は、日本運動器看護学会会員に限る。但し、日本運動器看護学会学術集会の講演者で本学会編集委員会から原稿を依頼された場合はその限りでない。

## 2. 投稿原稿のテーマ

本誌への投稿原稿のテーマは、運動器看護およびその関連領域とする。

## 3. 投稿原稿の種類

1) 投稿原稿は、国内外の他の出版物に未投稿、未発表のものに限る。

2) 投稿原稿は、以下の区分に基づいてその種類を明記して投稿する。

- ①総説：運動器看護に関する特定のテーマについての文献を分析し、総合的に解説したもの。
- ②解説：運動器看護に関する特定のテーマについての知見を論述したもの。
- ③原著：運動器看護に関する研究論文のうち、独創性が高く、新たな知見が論理的に展開され、研究論文として形式が整っているもの。
- ④研究報告：運動器看護に関する研究論文のうち、内容・論文形式ともに原著には及ばないが、研究として発表する意義あるいは価値があるもの。
- ⑤実践報告：運動器看護の実践のうち、新規性があるなど紹介することが運動器看護の発展に寄与し、会員の参考になるもの。事例報告を含む。
- ⑥資料：運動器看護に関するデータや提案など紹介することが運動器看護の発展に寄与し、会員の参考になるもの。
- ⑦その他、編集委員会が必要と認めたもの。

## 4. 投稿方法

1) 投稿原稿は以下の執筆要項に準じたものとする。  
2) 投稿原稿には、表題、キーワード(3語程度)、著者名と会員番号、所属機関名、メールアドレス、希望する原稿の種類、図表、写真等の各枚数、別刷希望部数を記した表紙を添付する。

3) 投稿原稿は、本文、図表・写真のいずれも3部(うち2部は著者名・所属を消したもので、複写でもよい)およびそれらを保存した電子媒体を送付する。

4) 原稿の送付にあたっては、封筒の表に「日本運動器看護学会誌原稿」と朱書きし、下記宛に書留または書留扱いの方法で送付する。

〈寄稿先〉日本運動器看護学会誌編集事務局

株式会社アクセライト

〒113-0033

東京都文京区本郷4-1-5 石渡ビル5F

E-mail : jsmn@accelight.co.jp

TEL : 03-6801-6180 FAX : 03-6801-6091

5) 査読後の最終投稿原稿は、本文、図表・写真を1部ずつ印刷したものと、それらを保存した電子媒体を事務局に書留扱いで送付する。

6) 投稿された論文(原稿および電子媒体)は、理由の如何を問わず返却しない。

## 5. 投稿原稿の受付および採否

1) 投稿は随時原稿を受付ける。原稿が到着した日を受付日とし、到着順に受付番号を付し、投稿を受付けた旨、返信する。

2) 投稿原稿の会誌掲載は査読を経て編集委員会が決定し、査読結果を返信する。

3) 査読者の判定によっては、原稿の修正あるいは原稿の種類の変更を著者に求めることがある。

4) 8月末日までに会誌掲載が決まった投稿原稿は、原則としてその年度の学会誌（4月発刊予定）に掲載する。

## 6. 原稿の執筆要領

1) ワードプロセッサを用い、A4用紙に1200字（40字×30行横書き）になるように作成する。

2) 書体は標準の明朝体10.5ポイントとし、新仮名遣い、常用漢字を用いる。

3) 外国語はカタカナで表記する。但し外国人名、日本語訳が定着していない学術用語などは、活字体の原綴を用いてもよい。

4) 一編の枚数は、本文、文献、図表を含めて以下の枚数以内とする。

①総説または解説：原稿10枚以内（仕上り5ページ以内）

②原著：原稿12枚以内（仕上り5ページ以内）

③研究報告：原稿12枚以内（仕上り5ページ以内）

④実践報告・資料等：原稿8枚以内（仕上り4ページ以内）

⑤標題、キーワード、著者名、所属機関名は和文とともに英文もつける。

⑥すべての論文に400字程度の和文要旨をつける。英文要旨も加えることができる。

⑦図、表、写真は、それぞれ1から順に通し番号をつけ、本文末に添付するとともに、挿入希望位置を本文原稿の右欄外に朱書きする。

8) 文献の記載方法は下記に従う。

①文献については、本文中の引用箇所（著者名、発行年）を表記する。著者が複数の場合、文中では、3名まで記載し以下は「他（英文ではet al.）」と表記し、文末の文献リストには、すべての著者の氏名を記載する。

②文献リストは、本文末に筆頭著者名のアルファベット順に列記する。

③文献リストは、文献の種類に応じて以下のように記載する。

### ・雑誌

著者名（発行年）、論文の表題、雑誌名、巻（号）、頁-頁。

例：坂本雅代、前田智子（2002）. 脊髄損傷者の受傷による苦悩から立ち直りに向け意識が変化する要因、看護研究、35(5)、439-449。

### ・書籍

著者名（発行年）、書名（版）、出版社名、発行地（外国の場合のみ）、頁-頁。

例：木下康仁（1999）. グラウンデッド・セオリー・アプローチ、弘文堂、120-125。

### ・書籍の一部

著者名（発行年）、章のタイトル、（編者）書名、出版社、発行地（外国の場合のみ）、頁-頁。

例：黒田裕子（1994）. 看護研究—スタッフを指導するために、（荒井蝶子他監修）看護管理シリーズ8、日本看護協会出版会、13-21。

### ・翻訳書

原著者名（原書発行年）／訳者名（訳書発行年）、訳書名（版）、出版社、頁-頁。

例：Pope, C., & Mays, N.（2001）／大滝純司訳（2001）. 質的研究実践ガイド、医学書院、74-85。

Benner, P., Hooper-Kyriakidis, P. L., & Stannard, D.（1999）／井上智子監訳（2005）. ベナー看護ケアの臨床知—行動しつつ考えること、医学書院、92-97。

## 7. 著者が負担すべき費用

1) 論文掲載料は原則として無料とする。

2) 別刷はすべて著者の実費負担とする。

3) その他、写真使用等による特別な費用が必要な場合には著者負担とする。

## 8. 著作権

日本運動器看護学会誌に掲載された論文等の著作権は、原則として本学会に帰属し、掲載後は本学会の承諾なしに他誌に掲載することを禁じる。最終原稿提出時、委員会より提示する著作権譲渡同意書に、共著者共に自筆署名し提出する。ただし、特別な事情により原則が適用できない場合は、著者と本学会との間で協議のうえ措置する。

注：・依頼論文等であり、その内容が著者個人ではなく著者の所属する法人等に係わるもので、著作権の本学会への帰属に関し当該法人等の了解が得られない場合。

・特別講演記事などで著者の了解が得られない場合。

**付則**

この規定は、平成17年9月10日から施行する。  
この規定の改正は、編集委員会、理事会の協議を経て行うものとする。

この規定の改正は平成18年4月15日から施行する。  
この規定の改正は平成18年7月 1 日から施行する。  
この規定の改正は平成19年3月17日から施行する。  
この規定の改正は平成20年3月15日から施行する。  
この規定の改正は平成21年3月15日から施行する。  
この規定の改正は平成25年1月27日から施行する。

# はじめて投稿論文を作成する方のために

編集委員会

## 作成の手引き

この手引きは、本学会誌に初めて投稿する、あるいは論文を書くことにまだ慣れていない皆様の論文作成時の手助けとなるように、査読時によく指摘される内容を注意点としてまとめたものです。

論文は、研究のプロセスや内容を知らない読者に、その研究の目的や方法、成果等をわかりやすく伝えることが使命です。皆様の研究成果を、少しでも多くの人々に伝えられますように、原稿作成時の参考にして頂ければ幸いです。

### 1. 論文作成の基本的事項

#### 1) 論文の体裁

##### (1) 論文を構成する各項目についての確認点

論文にまとめるときに注意して頂きたい点を、構成する項目と順序にしたがって以下に提示しました。論文の種類や書式、文献の記載方法等については投稿規定を参照ください。

##### i. 論文タイトル

タイトルにキーワードを含んでいるか？ 結果・考察および結論で述べた内容が、タイトルから読み取れるか？

##### ii. はじめに

この研究に至った経緯、先行研究、研究の意義等、研究の背景を明記しているか？

##### iii. 研究目的

この研究で明らかにする内容と範囲を明確に示しているか？

##### iv. 研究方法

研究対象、対象の選び方と特性、研究期間、

方法（面接、観察、質問紙調査など）、分析方法などを明記しているか？

調査研究の場合、質問紙（測定用具）はどのように選択したか、また自作の場合は、どのように作成したか？

自作の場合は、質問紙の妥当性（調べたいことについて回答が得られるか）、信頼性（同じ条件でくり返し調査しても、再現可能ななど）について、事前に検討したか？ 検討している場合（例えばプレテスト）、それを記述しているか？

量的研究の場合、分析方法に使用した統計ソフト（Version）および統計方法を明記しているか？

質的研究では、面接、参加観察などの方法や具体的な調査の方法を示しているか？

例：ICレコーダーに録音して逐語録を作成し、カテゴリー化した。など

倫理的配慮について明記しているか？（下記参照）研究目的や参加依頼の説明、承諾の取り方など、どのように倫理的な配慮をしたか、また、倫理委員会による承認を得た場合は、そのことを明記しているか？（人を対象とした研究では、実験研究のみならず、すべての研究において倫理的な手続きがどのように行われているかを必ず書いてください。）

##### v. 結果

研究方法に沿った結果の示し方をしているか、例) 有効、無効と結果について書くのみではなく、統計処理結果を数値で示す。

質的検討を実施した場合は、患者様の生のデータを示して検討する。

結果は順序よく整理して提示しているか。

## vi. 考察

考察は結果に基づいて順序よく述べているか。看護への示唆、すなわちこの結果を看護にどう生かすか、どう実施していくのかを考察から導きだし、記載しているか。

実践研究等では、実施した方法と他との比較において、良かった点、悪かった点との照合は？

## vii. 結論・まとめ研究の限界

- ・今回の研究目的に対する結論を示す。
- ・今回の研究の限界および今後の課題を示す。

## 2) 論理的に正しい文章にするために

論文は、筋道だった文章、話の展開が「命」です。論理的に正しい文にするために、書いた文章のチェック、話の筋道のチェックを以下の注意点に基づいて行いましょう。

## (1) 文章のチェックポイント

- i. 主語と述語が明確で文法上正確な文になっているか？
- ii. 句読点の位置によって意味が異なって受け取れないか？
- iii. 文章は、適度な長さで誤解が生じないか？  
長文になるほど意味がわかりにくく、様々に解釈される文となるので、可能な限り、短めにした方がいい。
- iv. 結果の記述にあたっては、具体的、客観的に表現しているか？
- v. 考察は研究結果に基づいて展開し、結果や引用した文献以外の内容に飛躍していないか？
- vi. 学術用語を適切に用いているか？

## (2) 論文の一貫性

・話の筋道（論旨）に一貫性があるかどうかを提出前にご確認ください。

例：

タイトル：研究内容を明解に言い表しているか？

研究目的：タイトルに示したキーワードと研究で明らかにすることに不一致はないか？

研究方法：目的にあった対象、方法が選ばれているか？対象者数は適切か？

研究の手続きは適切か？

結果・考察：結果が具体的にわかりやすく示されているか？

結果に基づいて考察が記述されているか？

考察では文献を活用しているか？

## 2. 図表について

## 1) 表題のつけ方

- (1) 図の表題：表題の頭に通し番号を付し、図の下に記す。

記載例

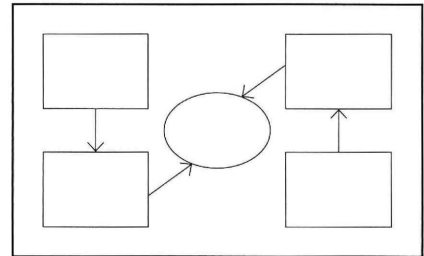


図1 ☆★☆☆の効果

- (2) 表の表題：表題の頭に通し番号を付し、表の上記す。罫線は横罫のみを記す。

記載例

表2 ◇◇◇前後の平均値と標準偏差 n=76

|      | 平均値  | 標準偏差 |    |
|------|------|------|----|
| ◇◇◇前 | 18.5 | 0.66 | ** |
| ◇◇◇後 | 12.9 | 1.03 |    |

\*\* $p < 0.01$

## 3. 引用文献・参考文献

投稿規定にある文献記載の方法をご参照ください。

## 「実践報告」のまとめ方

「実践報告」は、近年、保健医療福祉関係の研究会誌等で多く取り上げられるようになっている論文の種類です。一方、「研究論文」に区分される論文との違いが難しい側面もあります。

ここでは、「実践報告」を投稿する際の参考にして

頂くため、「実践報告」と「研究論文」との違いや共通点、論文としてまとめる際の留意点などを示します。

## 1. 「実践報告」を論文として公表するための要件

「実践報告」とは、実践してきたことを整理しまとめたもののことです。教育や福祉など多くの実践分野で広く取り組まれています。実践してきたものを整理してまとめる目的は、実践経過や結果を詳細に評価し、そこから得たものや課題を確認し、実践に活かしていくことです。実践に活かしていくための取り組みの範囲は、実践者自身の自己評価や学習、ケアチームでの経験の共有や実践の評価などがあり、これらの場合の「実践報告」の内容やまとめ方は、それぞれの範囲と目標に応じて様々でしょう。

しかし、「実践報告」を論文と研究会誌等で公表する場合は、「実践報告」の内容やまとめ方において一定の条件が伴います。日本運動器看護学会誌で公表する「実践報告」は、運動器看護の発展に寄与し、会員の参考になるものです。つまり、公表する「実践報告」の内容は、これまでの運動器看護の援助方法では困難な事例へ新たな方法の試みをして成果が見られた実践など、これまでに報告されていないものであることが条件です。例えば、運動器看護領域で標準的な実践をまとめ、わかったことなどを整理したものは、前述したように報告者自身の学習などの意味はありますが、運動器看護の発展に寄与するものには位置づけられないからです。

もう一つの条件は、報告者以外の読者が実践の内容、経過、結果、考察を理解でき、信頼できる論文であることです。実践報告の目的から、方法、結果、考察まで、一貫していて矛盾がないこと（論理的な一貫性）が求められます。読者が公表された「実践報告」を自分達の実践に活用していくためには、その論文を批判的に読み取り、活用の範囲や限界を見極めることができなければならないからです。読者が批判的に読み取れる内容を、筋道をたてて記述しなければなりません。

## 2. 「実践報告」と「研究論文」の共通点と相違点

「実践報告」を論文として公表するための2つの要件、すなわち、これまでに公表されていないものであること、論理的な一貫性があることは、「研究論文」にも求められることでもあります。「実践報告」も「研

究論文」も、運動器看護の発展に寄与するために論文として公表し、読者に活用して頂くことが目的ですから、そのために必要な条件であり共通なのは当然と言えます（図1）。

では、「実践報告」と「研究論文」の違いはどこにあるのでしょうか。運動器看護の発展に寄与する範囲が異なります。「研究論文」の目的は、結果の一般化、新たな知見の創出ですが、「実践報告」はそこまでは目指していません。「実践報告」の目的は、同様の事例、課題に役立つ実践内容・方法の提示にあります。

「研究論文」は、結果の一般化を目的としていますから、研究結果を得るための方法の妥当性、信頼性が問われます。そのために、研究に取り組む前から、研究課題の焦点化、課題に応じた研究デザインの選択、対象の選定、妥当で信頼できるデータ収集の方法、分析方法などを計画して、それを正確に実施していく必要があります。目的としたデータ収集が第一義的です。

「実践報告」は、データ収集が第一義的ではなく、実際にある課題、事例がスタートです。実践していくための計画はありますが、結果の一般化のための計画とは異なります。例えば、ある問題を抱えた対象群への看護介入の効果を検証する研究では、介入の効果に影響する条件のコントロールや介入群と非介入群の振り分け、データ収集などが必要です。一方、ある問題を抱えた事例へのこれまでとは異なる看護介入をして効果があった実践を報告する論文では、課題解決につながる実践をその事例のおかれた現実の中で行うこと自体が重視され、それを詳細に正確に記録しておくことが必要となり、条件を厳密にコントロールすることまでは求められません。先に報告するという意図や計画があったわけではなく、実践が先で、効果がありこれまでに報告されていない実践だったので、実践が終了してから振り返って整理して報告するということもあるでしょう。

以上のような実践した内容を整理したものを、研究論文としてまとめると矛盾が生じます。「実践報告」には、私達の看護実践に寄与する「研究論文」とは異なる意義がありますので、実践した内容を整理しまとめる場合は、「実践報告」として執筆しましょう。

## 3. 「実践報告」執筆の留意点

ここで、もう一度、日本運動器看護学会誌で公表する実践報告の目的と要件を確認しておきましょう

(図2). 目的は、運動器看護の発展に寄与し、会員の参考になるものです。つまり、公表する「実践報告」の内容は、これまでの運動器看護の援助方法では困難な事例へ新たな方法の試みをして成果が見られた実践など、これまでに報告されていないものであるこ

とが条件です。もう一つの条件は、報告者以外の読者が実践の内容、経過、結果、考察を理解でき、信頼できる論文であることです。実践報告の目的から、方法、結果、考察まで、一貫していて矛盾がないこと(論理的一貫性)が求められます。

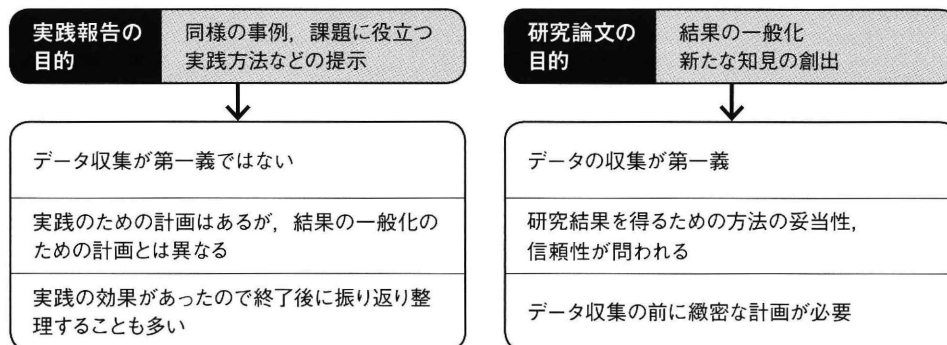


図1 実践報告と研究論文との違い

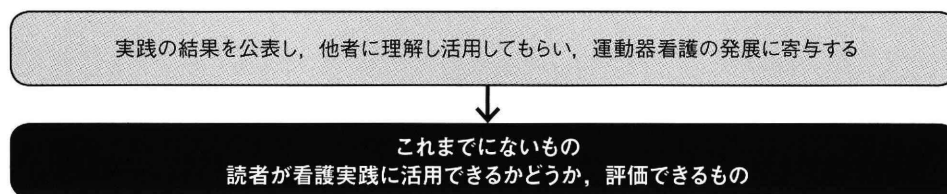


図2 日本運動器看護学会誌における実践報告の目的と要件

読者が公表された「実践報告」を自分達の実践に活用していくためには、その論文を批判的に読み取り、活用の範囲や限界を見極めることができなければならないからです。読者が批判的に読み取れる内容を、筋道をたてて記述しなければなりません。

以上を踏まえて、実践報告は、以下のような論文構成になるでしょう。実践内容の特徴によっては、項目立てタイトルを工夫したり、増やしたりすることが必要になるかもしれません。いずれにしても、「実践報告」公表の目的は、同様の事例、課題に役立つ実践内容・方法の提示ですから、事例や課題の内容、実践の内容やその経過と結果を読者に理解できるよう、まず事実として正確にわかりやすく示すことが重要です。実践の評価およびそこから考えた事柄は、考察で述べましょう。また、看護実践は実際には様々なことを複合的に用いるのですが、それらを全て記述するのではなく、今回の実践報告の目的としていることを選択して記述することが必要です。

○はじめに：

事例や課題に対する看護の状況やその看護実践に取り組む意義  
事例や課題に対するこれまでの文献の検討  
今回の実践報告の目的、など

○事例や課題の概要：

どのような事例か、取り上げている課題の所在を明確に示す  
行われた実践に関係する条件の説明(環境、ケア体制など)

○倫理的配慮：

実践自体は、対象者への看護サービスであり、サービス向上のための取り組みではあるが、その経過や結果の公表にあたっての説明と承諾、プライバシーの保護などをどのように行ったのか

○方法または「……への看護の方法」：

実践をだれが、いつ、どのように行ったのかなど読者が同じ方法でできるように記述する。看護の目標や方法などを示す場合もある。

## ○結果または「……看護の実際（経過と結果）」:

研究論文では、結果に該当する論文の核の部分であり、実践の結果得られた結果（事実）を正確に記述する。図や表を使うなどわかりやすくする。

## ○考察:

今回の結果がえられた理由や意味、他の文献との比較

今回の結果を実践にどのように活用できるか、研究への示唆や課題は何か、など

## (○おわりに:結論)

## ○文献:

投稿規定に合わせる

論文作成する場合は、まず、長くなってもよいので、できるだけ具体的に詳細に記述しましょう。その後で、必要のないところを削除する、表現を工夫するなどして、投稿規定の範囲に短くしていくとよいでしょう。なお、初めて論文を執筆される場合には、論文の構成、そこでどんな内容が記述されているかなど、「実践報告」に区分されている既存の論文を参考にすることが有用です。日本運動器看護学会誌に掲載されている実践報告の論文を参考にさせて頂くとよいと思います。編集委員会では、日本運動器看護学会学術集会で発表した一般演題を、論文として学会誌に投稿して頂くために、第8回学術集会から研究論文セミナーおよび研究相談室を設けています。ここでは、第9回学術集会研究論文セミナー「実践報告のまとめ方」を再構成しました。

## 投稿論文の査読コメント別解決方法 (研究報告・実践報告)

研究には、研究計画をたて、研究をして、それを論文にまとめるというプロセスがあります。論文を書くというのは、最終プロセスなので、最初の2つの段階である研究計画・データ収集・分析がしっかりしていることが大切であるという前提のもと、このページを参考にしてください。

研究には、原著、研究報告、実践報告などの分類があります。今回は、日本運動器看護学会誌への投稿が多い、研究報告と実践報告に焦点を当てて説明します。論文を書く目的は、自分たちがやってきた研究をまとめるだけでなく、その成果を他の人と共有することにあります。他の人と共有することで、ひとつ

の研究成果が、様々な臨床現場で活用され、よりエビデンスのある看護実践が可能になります。

論文を構成する項目は、7項目あります。例えば、虹は7色ですが、独自の色を出し、すべてが集まって7色のきれいな、一つの作品（虹）になります。研究論文もその構成する7項目が規定にそって過不足なく記述されていくことが重要です（図1）。

## 1. タイトル

目的で使用しているキーワードを含んで表現します。

## 2. はじめに

この研究に至った経緯、先行研究、研究の意義などの研究の背景を簡潔に書きます。

## 3. 研究目的

この研究で明らかにする内容と範囲を明確に、具体的に示します。対象や状況を“具体的に”表現することがポイントです。また、用語の定義をすると良いです（図2）。

## 論文を構成する7項目



図1

## 研究目的

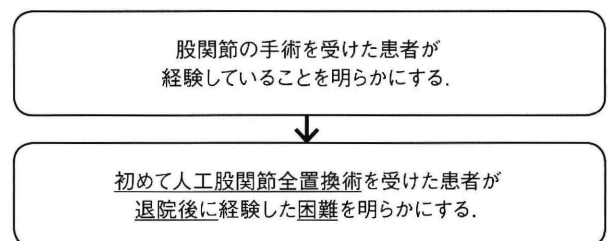


図2

## 研究方法

## 1. 研究対象

2010年4月から2011年3月の間に初めて人工股関節全置換術を受け、本研究の主旨に賛同し、研究参加の承諾が得られた患者。

関節リウマチの患者および退院先が介護施設等の患者は対象外とした。

図3



## 研究方法

## 2. 調査期間

2010年4月～2012年3月

## 3. データ収集

データ収集は半構造化面接法により行った。面接は、退院後1ヶ月、3ヶ月、6ヶ月の外來受診の際に行った。面接内容は対象者の許可を得てICレコーダーで録音した

## 4. 面接内容

「退院してから、苦しいと思った経験、悩んだ経験、難しいと感じた経験を教えてください。」

図4

## 研究方法

## 5. データ分析

データ分析には、内容分析の手法を用いた。録音した面接内容より逐語録を作成した。分析の記録単位は、1センテンスを1記述単位、協力者1名分の面接内容を1記録単位とした。

作成した逐語録を共同研究者〇名で精読し、退院後の困難に関する記述を抽出、意味内容の類似性によりカテゴリ化し、内容を示すカテゴリ名を命名した。

更に〇名の共同研究者によりカテゴリの妥当性を検討した。

図5

## 結果

## 1. 対象者の背景

調査期間中に人工股関節全置換術を受け、退院した患者は56名であった。そのうち、研究協力への同意が得られた患者、男性5名、女性17名を調査対象とした。

対象者年齢は、55～60歳が2名、61歳～65歳が8名、66歳～70歳が7名、76歳～80歳が3名、81歳以上が2名であった。家族構成は……（略）で、7名は現在も職業を継続していた。

図6

## 結果

目的に沿って記述する

## 2. 人工股関節全置換術を受けた患者が退院後に経験していた困難

分析の結果、抽出された総記述数は186センテンスあり、23サブカテゴリ、8カテゴリを形成した。人工股関節全置換術を受けた患者が退院後に経験していた困難を示す8カテゴリは、[○○○の困難]、[○○○○の困難]、[○○の困難] …… [○○の困難]、[○○の苦痛]、[○○○への不安] [家族の優しさの再確認] であった。

図7

## 結論・まとめ

目的に対する結論

人工股関節全置換術を受ける患者には、退院前から退院後の生活がイメージできるような指導が必要である。



1. 初めて人工股関節全置換術を受けた患者の退院後の困難な経験は、[○○○の困難]、[○○○○の困難]、[○○の困難] …… [○○の困難]、[○○の苦痛]、6つのカテゴリに分類された。
2. 初めて人工股関節全置換術を受ける患者には、退院前に[○○]、[○○○]、[○○]、… [○○○] についての指導をしておく必要性が示唆された。

図8

## 4. 研究方法

対象、期間、データ収集方法、データ分析方法を具体的に書き、倫理的配慮を明記します。

対象には、年齢、性別、疾患などの対象の特性を示します。

データ収集方法には、何のデータをどのように集め

たかを示します（図4）。

データ分析方法には、どのように分析したのかを示します（図5）。

## 5. 結果

結果の内容を書き出す前に、対象の背景や概要を書くとその後に書かれている結果を理解しやすくなり

ます (図6).

一番大切なことは、結果のみ、つまり、研究で明らかになった事実のみを目的に沿って、客観的に書くことです。研究をしている段階で考えたこと、気付いたことを書きたくなりますが、考察を交えず、この研究で明らかになった事実だけを示すことがポイントです (図7).

## 6. 考察

結果で記述したことについて、考察することを示すことがポイントです。考察したい結果が全て記述されているか確認することが必要です。また、飛躍しすぎ

た考察、推測の域を超えない考察、先行研究を引用して否定する考察になっていないか確認しましょう。

## 7. 結論・まとめ

今回の研究目的に対する結論を書きます。この研究で明らかになった範囲を超えて、抽象的に大きく書きすぎないことがポイントです (図8).

## 8. その他

引用文献の記載方法や記載内容は、投稿する雑誌等により異なります。文献表記の方法も投稿規定を確認して記載することが必要です。

# 日本運動器看護学会投稿論文 チェックリスト

論文を投稿する前にこの『投稿論文チェックリスト』を用いて原稿を確認し、チェック内容どおりであることが確認できた箇所の☑に、☐を記入してください。

- 
1. 著者は、全員が本学会員である。
- 
2. 原稿は、未発表（学会発表は除く）で他の出版物に投稿されていない。
- 
3. 原稿は、A4横書きで、1枚につき、1200字（40字×30行）である。
- 
4. 原稿枚数は、「投稿規定」の範囲内（図表も含めて以下の枚数。  
総説・解説：10枚以内、原著・研究報告：12枚以内、実践報告・資料等：8枚以内）である。
- 
5. 表題、キーワード、著者名、所属機関名は、和文とともに英文もつけた。
- 
6. 倫理的配慮が必要な研究は、具体的な内容を記載した。
- 
7. 書体は、標準の明朝体10.5ポイントとし、新仮名づかい、常用漢字を用いた。
- 
8. 句読点は「、」、または「.」にした。
- 
9. 読み手に確実に内容が伝わる、簡潔で、分かりやすい文章で記述した。
- 
10. 図表のタイトルは、図は下に、表は上に明記した。
- 
11. 図、表、写真は、それぞれ1から順に通し番号をつけ、  
本文末に添付するとともに、挿入希望位置を本文原稿の右欄外に朱書きした。
- 
12. 引用文献は、本文中の引用箇所に（著者の姓、発行年）を表記した。  
著者が複数の場合は、文中では3名まで記載し、以下は「他（英文ではet al.）」と表記した。
- 
13. 文献リストを本文末につけ、筆頭著者名のアルファベット順に配列した。
- 
14. 文献リストの表記は、「投稿規定」に定められたとおりに記載した。
- 
15. 400文字程度の和文抄録をつけた（原著の場合は、250words程度の英文抄録を付けることが望ましい）。
- 
16. 抄録は原則として、自的、方法、結果、考察、結論を簡潔に記載した。
- 
17. 原稿は、表紙、抄録、本文、文献リスト、図表の順に並べた。
- 
18. 表紙を作成し、表題、キーワード（3語程度）、著者名と会員番号、所属機関名、  
メールアドレス、希望する原稿の種類、図表・写真等の各枚数を明記した。
- 
19. 原稿は、3部（うち2部は著者名、所属を消したもの）およびそれらを保存した電子媒体を用意した。
- 
20. この「投稿論文チェックリスト」の全ての項目に☑がついている。
- 

論文を投稿する際は、この『投稿論文チェックリスト』を同封してください。

## 論文を 投稿する 方へ

論文の作成には多大な努力を要します。この努力の目指すところは、論文を公表して多くの仲間にその内容を伝え、様々な意見を得るとともに関連分野の看護実践や研究に活用してもらうことにあります。このような目的を果たすことができる論文に仕上げるために、論文を投稿すると査読が行われ、査読者とのやりとりが1～3回あるのは通常のことです。査読が通って採択された論文は、最初に投稿した論文より完成度の高い論文になっているはずですが、査読者からのコメントがたくさんあって、困難感を抱くこともあるかと思いますが、諦めないでチャレンジしてください。

日本運動器看護学会 編集委員会